

いわゆる改革開放の時期における中国語新語・流行語に関する考察 —— 新語「副詞＋名詞」という表現を中心として

The Study on the New and Fashion words of Chinese in The Period of “Reformation and Openness”

—— Mainly on the New Phrases of “Adverve+Noum” Form

于 克 勤
Yu Kegin

0. はじめに

中国語は単語に語変化がなく、語順で文意が決まる「孤立語」と呼ばれる。だが、漢字語である現代中国語は造語力が極めて強い。漢字それぞれに意味があり、数文字が結合すると、たちまち新語が出来てしまう。また言葉はある社会に生まれ、その社会で育って来たものであり、従って、生まれた時の独特の意味合い、イメージを持つのが常である。もちろん、認められた言葉・語彙などが最も敏感にその時期・時代の政治、経済、社会、文化、教育、歴史、風土、風俗などを反映すると考えられる。

一方、周知のように、中国では70年代後半から、「対内改革・対外開放」政策の実行と経済成長の加速により、中国社会が大きく変貌した。特に香港は1997年にイギリスから、マカオは1999年にポルトガルから中国に返還され、「特別行政区」（一国家二制度）となった後、中国社会はいっそう急速に発展してきた。また最近の数年間のあいだに、中国台湾のいくつかの政党の指導者とその代表団が相次いで中国大陆の各地を訪問したことに伴って、「中華民族の統一」という新たな高揚期を迎えている。このような社会的な背景の中では、当然のことながら、これまでになかった、いろいろな新事物が現れ、それとともにたくさんの新語が生まれた。それらの言語とナショナリズムが織り成す中国語の流行語・新語が人々に与える影響力は強い。また、中国「兩岸三地」（大陸と台湾との「兩岸」、台湾、香港、マカオの「三地」）の日常社会の新聞・雑誌やテレビ・ラジオ等のマスコミに現れる新語は前より何倍も増えつづけてきた。その中では、特に「副詞＋名詞」という言葉の表現が以前より目立って多くなった。例えば、「很中国」、「很台湾」、「很文化」、「最原始」、「最香港」、「最女性」、「非常绅士」、「非常新加坡」、「非常高山流水」、「太美国」、「太流氓」、「更感情」、「更立体」、「够朋友」、「特气质」、「特別好莱坞」、「比较现代」などがそうである。また他に特別な新語語彙も多くある。更に方言によって、その言葉の表現形式が異なる場合もある。だが、中国についての真の理解に至るには、その社会の変化と共に生まれた新しい言葉を理解するのが何よりの近道と思われる。そのため、新語「副詞＋名詞」という言語の表現形式及び文学的表現などはどのような語用を持ち備えているのだろうか、どのような特徴・どのような変化が生じているのか、社会的考察・研究に値する課題である。それは今日の生々とした巧みな表現法として大変重要な研究テーマである。

I. 「副詞＋名詞」を用いた新語の構文及び意味について

以下の例文を説明しやすくするために、次のような符号を表記する。

主 語	=====	述語・動詞	▲▲▲▲▲
重要部分		目的語・名詞	—————
状況語	-----	限定語・形容詞	~~~~~

本論文では「副詞＋名詞」という表現形式の「副詞」というのは、主に「很、非常、最、太、真、挺、特別、頂、特、够、十分、相当、更、绝对、比较……」のような「程度副詞」を指し、また「这么、那么」のような「指示代詞」も含まれることもある。また「名詞」というの、主に「名詞或いは名詞フレイズ」を指すものである。

周知のように、名詞は一般に人や物や事柄の客観的本質の理性的意味を概括し反映する他に、またいくつもの理性的、概念的思考の能力が付いてるはずである。例えば、人や物事の基本的な意味、評価の意味、組み合わせる意味、内包の意味、内部の構成形式など。具体的に言うと、例えば、人の場合には、その人の性別、外形、性格、習慣、経歴、出身地、家族、知名度など。また物や事柄の場合には、その物事の性質、形状、歴史、状態、影響など。要するに、みな独自の特徴をもつはずである。また、それぞれの特徴がある具体的な言語環境の中では、自然に人びとにいろいろな連想を与え、さまざまな想像を起こし、さらに、本来の人や物事の基本的、客観的な意味の上に、主観的で多彩な意味が生まれる。

日常生活の中では、ふつう名詞を使うときに、名詞の理性的意味とその文法機能を発揮するはずである。しかし、ある場合には、交流するために、相手に連想と想像などを与えるため、その名詞の内包の意味がよく用いられる。でも、その意味の機能を伝え、転換するために、もし手段或いは方法としては、印欧語族の中では一般に名詞の語尾に適当な接尾字を加え、名詞を形容詞の文法機能に転換することができる。しかし、中国語の場合には中国語の単語の型の変化がなく、その目的を達成するため、その場合では、よく「程度副詞」を、その名詞の直前に置き、「程度副詞＋名詞」という型になる。そうすれば、よりよく形容詞の機能を発揮することができる。以下、「程度副詞＋名詞」という表現型を考察することにより、それらを類型的にまとめてみる。

I - 1 概念化の名詞を表わすタイプ

概念化の名詞というのは、ふつう具体的ではない事物の名称を表わす語で、すなわちこの種類の名詞では、主に抽象名詞を指す場合が多い。例えば、次の例文(1)～(12)の中で表現された传统、古典、文化、青春、忠诚、气质、文艺、现实、平凡、专业、职业、原始、大气などのようなものである。だが、これらの抽象名詞がそれぞれの程度副詞に修飾されると、その抽象名詞の本来の「抽象」という概念がいろいろに変わる。すなわち、「程度副詞＋名詞」という型で、その抽象名詞の基本的、客観的意味上に、いろいろな連想的、多彩的な内包の意味が広がって、いろんな派生的、具体的な意味がいきいきとして表現されてくる。以下の実例をみてみよう。

- (1) “我们桑家的人，比较重感情的，……比较传统的，比较古典的。”

(香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・《最高任務》〈第7集〉2006.8.30)

- (2) “文化不是职业，而是文化人格，……往往是非常文化，……”

(香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・《秋雨時分》2006.8)

- (3) “晓庆的确变了，穿了一套白底镶天蓝的运动装，扎一根松松的马尾辫，又朴素又青春。”
(文汇报 1991. 10. 31)
- (4) “那天我独自在伯尔尼逛街，绕来绕去几次迷路，后来终于悟得一个诀窍，一旦迷路就找河，找河了阿勒河就找到了最忠诚、最年老的向导，再也错不了。如此几度反复，我把伯尔尼的主要街道弄得清清楚楚。”
(余秋雨《行者无疆・突破的一年》)
- (5) “你特气质，很男人，我非常崇拜你。……”
(《危情杜鹃》2006. 10)
- (6) “这个文章很文艺。”
(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・2006. 10. 15)
- (7) “我觉得我们这样生活下去，是挺现实的……”
(《我是有情人》(第17集) 2006. 9. 20)
- (8) 她是妖，又是仙，但成妖成仙都不心甘。她的理想最平凡也最灿烂：只愿做一个普普通通的人。这个基础命题的提出，在中国文化中具有极大的挑战性。”
(余秋雨《文化苦旅・西湖梦》)
- (9) “我觉得他们俩人(指话剧演员)特别专业，……”
(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・2006. 10. 30)
- (10) “此人刚从国外回来，非常可靠，非常职业，……”
(香港鳳凰衛視中国語放送《最高任務》(第11集) 2006. 9. 1)
- (11) 超叔生前的笑声扬起，“鬼佬爱把女人的私处比喻为门，甚至称之为有翼之门；比喻为洞穴，才是最原始的洞穴。当原始男人把女人击晕，拉她入洞穴，其实，这等于进入她的洞穴。生于斯，也死于斯。男人就是这样。”
(『香港短篇小说选(2000～2001)』・昆南《天堂舞哉足下》)
- (12) “我并不完全同意，但心里也承认这种说法非常大气。不幸的是，正是这种说法，消解了他刚刚对美国 and 上海的批评，变成了自相矛盾。”
(余秋雨《余秋雨人生誓言・万里行脚》)

I-2 人物・有名な人を表わすタイプ

以下にこれらに関する具体的な事例を挙げてみる。例えば、

- (13) “他是个很资本家的人，……”
(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・2006. 2. 12)
- (14) “因为英国的教育它很绅士，所以「EEC 欧文学院」选择了英国作为我们的教育基地，……”
(中国「EEC 欧文学院」理事長 陳田忠 2006. 3. 18)

- (15) “魏家宝你太流氓了，竟敢调戏我的老婆，……”

(香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・《一江春水》(第四集) 2006. 11. 2)

- (16) “我一眼看到你就觉得你特别修女，不、不、是特别淑女，不是特别修女，……”

(赵本山主演・电影《马大帅》)

- (17) “……反正我觉得他(军人・林彬)挺男人的，……我要嫁给他，……”

(《幸福像花儿一样》2006. 3. 27)

例文(13)の「资本家」は、その名詞の基本的な意味が主に「資本を所有し、それを貸し付け、またはそれによって労働者を雇用・使役する人。」と解釈される。だが、文の中からみられるように、程度副詞「很」に修飾されたら、「很资本家」という表現は、もちろん「资本家」という一般概念の上に、さらにより以上の広い意味が表現されるはずである。

同じように、例文(14)の「很绅士」は、「绅士」(上流社会の男子、または品格があつて礼儀にあつた人と言われる人間)より、高い評価される優秀な男子を指す。また、例文(15)の「太流氓」は、「流氓」(一定の住所も職業もなく、あちこちうろついて、おどしなどを働くならずもの、或いは無頼漢、ならず者、または女性に対するわいせつ行為や騒乱行為を指すことが多い)ということより、もっと悪い印象を与えるはずである。また、例文(16)「特别修女」、「特别淑女」も同様に「修女」(修道女という人間)、「淑女」(温和で善良な淑やかな女性、または女性の美德を指す)ということより、高い評価される優秀な女性を意味する。次の例文(17)の「挺男人」という言葉も「男人」(強くしっかりしているなど男性の特質をそなえた男子)よりも多彩的な内包の意味が広がって表現されている。

I - 3 国名・地方名を表わすタイプ

以下にこれらに関する具体的な事例を列举する。例えば、

- (18) “我是非常中国化的，……”

(美国华盛顿州州长・骆家辉 2005. 12)

- (19) “这味道儿更中国，……”

(香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・2006. 10. 15)

- (20) “我长得很丑，但本人长得很中国，中华民族五千年的沧桑和苦难都写在我的脸上。”

(《北京青年报》1991. 3. 3)

- (21) 他说：“哈，我刚去过。上海这些年的变化之大，举世少有，但是……”他略略迟疑了一下，还是说了出来：“不要太美国。”细问之下，才知道他主要是指新建筑的风格和夜间灯光，那么，也算回答了我的问题。”

(余秋雨《余秋雨人生誓言・万里行脚》)

- (22) “那男人的模样，很山东，车子上扭屁股一骑一蹬，更山东了。”

(阿成《回望古城》)

この種類の国名、地方名というのは ふつう有名な、独特的な個性をもち、ある程度以上に特徴

個性をすぐ連想反応させるような国家、地域名の固有名称が多い。例えば上の例文(18)～(22)の中では、それぞれの中国、美国(アメリカ)、中国の山東省などのような地域名称である。

もちろん、以上の各例文の意味からみると、例文(18)、(19)の中国という国は、単に中国という国名を言うことではなく、例文(18)中の「更中国化」というのは、主に中国の食文化に関する分野のいろんな連想が考えられる。また例文(19)中の「很中国」というのは、主に中国での五千年の歴史、また中国人のスタイル、形象、特徴などの多彩的な特徴を内包し意味しているということが見られる。同じように、例文(20)、(21)の美国(アメリカ)という国でも、単にアメリカという国名を言うことではなく、例文(20)中の「挺美国」というのは、主にアメリカ人がふつうしゃべるときの様子、表情などの連想がみられる。また例文(21)中の「太美国」というのは、主にアメリカでは現代的な新しい建築がそのニュースタイル、風格、特徴、及び夜になるとある町での素晴らしい夜景ということが連想される。

また、例文(22)中での「很山东」、「更山东」という言葉の表現はもちろん単に中国でのある「山東省」という地名を言うことではなく、中国の「山東省」の人間の形象、気質、性格、文化などのことが中国でのほかの地方の人間と違うことを強調する。

ちなみに、ある場合では、ある場所を表わす名詞、方位詞及び名詞・方位詞フレーズがその場所の確かな位置または性質などを、適当な形容詞ではつきり修飾することができない場合では、そのかわりに、ある「程度副詞＋名詞」の型で、修飾できる実例がよく見られる。次の数例をみてみよう。

- (23) “在一排镜子的最左面，父亲对著我笑，笑得很诡异。当初母亲是如何应对这种笑的？我不敢问。”

(《台湾2005年小说选》・谢晓宏「理发」)

- (24) “里斯本西去三下公里有危崖临海，大西洋冷雾迷茫。这里的正式地名叫罗卡角，俗称欧洲之角，因为这是欧洲大陆的最西点。在人们还有知道地球形状的古代，这里理所当然地被看成是天涯海角。

(余秋雨《行者无疆・我的窗下》)

- (25) “初夏的白天，我靠坐在车厢最角落，闭上眼睛，残余在眼前的光影印象慢慢消散了，突然，我清楚意识到自己应该是身处山林的边缘，……”

(《台湾2005年小说选》・杨照「一九四八」)

- (26) 可他骨子里毕竟是个骄傲的人。十年前他对独立采访者许晓说：“我认为我始终是走在中国文学的最前列的。”

(《激情中国》・余华「《兄弟》情深」)

- (27) “底格里斯河千载如姑一，无声流淌，而人类生态的最根本部位其他也没有发生多大变化。”

(余秋雨《余秋雨人生誓言・万里行脚》)

- (28) “这一切……让我们看到了一个更立体的陈指导(指中国国家队举重教练陳文斌)……”

（《名将之约》2006. 12. 3）

例文(23)の「在一排镜子的最左面」という言葉表現によって、文中の主人公・父親が立っている「最左面」の場所がはっきり良く分かる。また例文(24)の意味からみると、ヨーロッパの「罗卡角」という地名は、本文の「这是欧洲大陆的最西点」という方位詞によって、その場所がより正確にわかる。また例文(25)の「我靠坐在车厢最角落」という表現によって、文中の私が座っている「最角落」の場所がはっきりわかる。次の例文(26)中の表現された意味からみると、「……我始终是走在中国文学的最前列的」という表現は、文中の「最前列的」という言葉によって、主人公の私が中国文学界に占める重要な役割や地位がよくわかる。また例文(27)のような「最根本部位」という名詞・方位詞フレーズの表現もみられる。次の例文(28)の「更立体的陈指导」という方位詞フレーズの言葉によって、われわれはいろいろな側面から陳文斌監督の采配や人柄などがよくわかる。

I - 4 物・事柄及び物事の比喩を表わすタイプ

ある場合には、一部の物事の説明、これと類似したものを借りて、「副詞＋名詞」型で表現することもある。以下の数例をみてみよう。

(29) “她还是很阳光的，……”

（香港・鳳凰卫视中文台 2005. 11）

(30) “非常道 电影最大的魅力是探寻未知的部分”

（《激情中国》・李安「深怀文化归属情结」）

(31) “非常咖啡可乐”

（香港・鳳凰卫视中文台 2005. 12）

例文(29)の「阳光」という名詞は主に「日光が大地をあまねく照らしている」という意味を表わす。程度副詞「很」に修飾された「很阳光」という言葉になると、ある人の明るく性格を比喩することができる。また例文(30)の「探寻未知的部分」という言葉の表現は、主に「未知な部分を探すのは、一般的な道ではないことと同じ意味だ」、これはよりよい「非常道」という言葉で比喩することができる。また例文(31)の「非常咖啡可乐」という言葉は中国語でものすごくおいしいコーヒー、コカ・コーラという意味のたとえ。また同じように、次の三つの言葉が近頃上海東方衛視、香港鳳凰衛星テレビ中国語放送のコマーシャルの中ではよくみられる。

(32) “非常声音”

（上海東方衛視中文台・广告标题 2006. 1.）

(33) “2005 年「非常榜」”

（香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・广告标题 2006. 2）

(34) “非常新加坡”

（香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・广告标题 2005. 12）

I-5 名詞フレーズを表わすタイプ

以下、これらに関する具体的な事例をみてみよう。例えば、

- (35) “他是一个最香港的男人——曾志伟。”

(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・2006. 5. 12)

- (36) “我知道，他不是做了件挺爷儿们的事儿吗？……”

(《幸福像花儿一样》2006. 5)

- (37) “使旅游成为一个特别阳光的事业，……”

(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・2006. 9. 15)

- (38) “中国很多人富裕起来之后，很快陷入生态紊乱，不知怎么过日子了，文化人批评他们缺少文化，其实在我看来，更多的倒是受了那些看起来挺“文化”的概念的毒害。”

(余秋雨《余秋雨人生哲学・跋涉废墟》)

例文(35)～(38)の中では、各例文の意味のポイントからみると、例(35)の「香港的男人——曾志伟」、例(36)の「爷儿们的事儿」、例(37)の「阳光的事业」、例(38)の「“文化”的概念的毒害」という名詞フレーズがそれぞれの程度副詞「最」、「挺」、「特别」、「挺」に修飾され、「程度副詞+名詞フレーズ」という型で、さまざまな連想的、多彩的な意味が表現されてる。

I-6 ある物事を形容、強調するタイプ

以下、これらに関する具体的な事例をみてみよう。例えば、

- (39) “中国有名的钢琴家朗朗是非常非常经典的，……”

(香港鳳凰衛視中文台総裁 刘长乐 2006. 10. 22)

- (40) “你这个人做事，也真够职业的，……”

(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・2006. 8. 30)

- (41) “林彬还真挺男人的，真不错，……”

(《幸福像花儿一样》2006. 5)

- (42) 于是，在阿晓上学的那一年，他们全家搬到了最最中心，最最繁华、“最最上海”的淮海中路的一条新式弄堂里，……

(王安忆《阿晓传略》)

ある場合には、物事を形容、さらに強調するため、同じ程度副詞或いは違う程度副詞を重ね型にする表現がみられる。例えば、例文(39)の「非常非常经典的」の副詞「非常非常」、例文(40)、(41)の「真够职业的」、「真挺男人的」の副詞「真够」、「真挺」というような表現である。また例文(39)～(41)からみたように、その「经典」、「职业」、「男人」という物事を、いっそう強調するため、話し言葉では常に修飾された物事の直後に、語気助詞“的”がよく付き、強調の語気が含まれることが多い。

一方、文の中ではある物事を形容、強調するために、「程度副詞＋形容詞」型と「程度副詞＋名詞」型の並列にも修飾する表現がみられる。例えば、例文（42）での「淮海中路的一条新式里弄」という場所を形容、強調するため、まず「最最繁华」という「程度副詞＋形容詞」型で修飾されたとともに、その前後に、さらに「最最中心」、「最最上海的」という「程度副詞＋名詞」の型で修飾され、その「一条新式里弄」というすばらしい場所がよく表現され、より効果的な表現がみられる。

ところが、文の中では、ある物事を修飾する場合には、修飾された物事（名詞）の接尾辞に「～化」、「～性」、「～气」、「～主义」などを付ける表現がよくみられる。次の数例をみてみよう。

- (43) “为了这件事，母亲曾扯著我的头发大喊大叫——或者大喊大叫的是我。总之，这在记忆中是我与母亲最戏剧化的场面。”

（《台湾 2005 年小说选》・谢晓宏「理发」）

- (44) “我是非常中国化的，……”

（美国华盛顿州州长・骆家辉 2005. 12）

- (45) “张震，今天我觉得非常历史性……”

—— 节目主持人 莫文蔚

（鳳凰衛視中文台「第 43 届金马颁奖典礼」2006. 11. 25）

- (46) “你别见怪，她过去是开大卡车的，这二年好多了。熏陶得有点儿书卷气了。再早点儿，这么拐弯儿抹角儿地说话，她板儿砖早拍上去了。

（王朔《编辑部的故事》）

- (47) “我解释说，可能因为我太唯物主义了，所以目光短浅。”

（王朔《顽主》）

例文（43）、（44）の「戏剧」、「中国」という名詞の概念をよく理解した上に、それぞれの「戏剧」、「中国」の直後に、接尾辞「～化」という「変化の意味」の言葉をつけると、そのもとの「戏剧」、「中国」という性質の意味が広く、強く表現され、その上、まだ程度副詞「最」、「非常」を、それぞれの「戏剧化」、「中国化」の直前に置いて修飾すると、もとの程度や状況のさらに上をいっている状態を表す多彩な連想、表現などがみられる。

同じように、例文（45）の「历史」という名詞は、接尾辞「～性」という言葉によって、まだ程度副詞「非常」に修飾されたことによって、その文の中での「今天」（今日）という価値がものすごく重要だと感じられる。

また同じように、例文（46）、（47）の「书卷」、「唯物」という名詞も、それぞれの接尾辞「～气」、「～主义」をつけたことによって、さらにそれぞれの「书卷气」、「唯物主义」という言葉の直前に、程度副詞「有点儿」、「太」に修飾されたことによって、もとの「书卷」、「唯物」という名詞の概念及び性質や状況などの特徴が文の中ではさらに広く強く表現されていることがわかる。

I - 7 指示代詞を用いるタイプ

ある場合には、指示代詞「这么」或いは「那么」は形容詞と同じように名詞を修飾することができる。次の実例をみてみよう。

- (48) “这个老头儿，怎么这么专家。”

(《追踪》(第一集 2006. 10. 7))

- (49) “没想到您那么大的年纪，还那么前卫。……”

(《誓言》(第12集) 2006. 5. 7)

- (50) “胡眉开始走过来。掩映之间，他看出来了，她的下身是真空的，散发着刚沐浴完毕的芬芳气味，完完全全的大理石，而且是属于凡尔赛宫的大理石，移动的大理石，看上去，是那么冰冷，那么古典，那么沧桑，可是，当她整个身体压过来时，他的感觉完全不同。他像拥抱着路易十四一生淫秽的历史。”

(《香港短篇小说选(2000～2001)》・昆南《天堂舞哉足下》)

上の例文(48)からみたように、指示代詞「这么」はよく具体的な物事・人物——「专家」という人物を修飾することができ、さらに話し手の感嘆の語気も同時に強く感じている。同じように、ある場合には、例文(49)、(50)からみるように、指示代詞「那么」はそれぞれの抽象的な物事——「前卫」、「古典」もよく修飾することができる。もちろん、両例文の中のやや誇張を伴う生き生きした表現も強く感じられる。

II. 「副詞＋名詞」を用いた新語の語用について

II-1 「副詞＋名詞」に関する文法機能

以上「I」で述べてきたように、「副詞＋名詞」の組み合わせる型でよく形容詞の役割をはたすものがある。だが、文の中では、「副詞＋名詞」の構文が形容詞と同じようにさまざまな文法機能を担当することができる。次の例文で考察してみた。

- II-1-1 ある場合には、「副詞＋名詞」の型は、文の中ではよく限定語という文法機能を担当している例がみられる。次の実例をみてみよう。例えば、

- (51) “……要用比较中国的方式教育他们，……”

(香港鳳凰衛視・楽楽チャイナ・《采访美华裔女劳工部长——赵晓兰》2000. 1. 3)

- (52) “当年是我一生最漂亮、最青春的时刻，我想给了你，就算后来分手也值得的，起码这十几年我不用反复思量，觉得遗憾。”

(《香港短篇小说选(2000～2001)》・陈汗《反手琵琶》)

- (53) “美人鱼终于以最经典的形象出现，手上抚弄着贝壳做的小竖琴，王子陶醉在琴声与歌词里，又一关求偶的心曲，王子迎上前，把人鱼抱起，在草地上热吻，侍从迅速拿出轻纱东南西北将二人围帐起来，架起一个明亮的灯笼，朦胧里有两双灯蛾在玩火。”

(《香港短篇小说选(2000～2001)》・林超荣《王子爱上美人鱼》)

- (54) “——这是一个很古典的故事。历来总有一些高贵的人，把生命的理由与人格尊严连在一起。”

（余秋雨《余秋雨人生哲言・人格尊严》）

- (55) “我觉得我很喜欢看一些很技术的东西……”

——韩寒（青年作家）

（香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・《可凡倾听》2006. 12. 21）

- (56) “房莹是很女人的一位服装设计师，……”

——节目主持人 鲁豫

（香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・《鲁豫有约——说出你的故事》「走进服装设计师」
2006. 11. 19）

上の例文（51）～（56）の中では、文法の側面からみると、各例文が限定語になるときは、数量詞を除き、その他は被修飾語と修飾語との間に通常「的」を加えるので、「的」は限定語の目印と言える。だが、例文（51）の「方式」という名詞が「比较中国」という「副詞＋名詞」の型で修飾され、限定語と見られる。同じように、例文（52）～（56）の中では、文法の側面からみると、順にそれぞれの「时刻」、「形象」、「故事」、「东西」、「服装设计师」という名詞が、それぞれの「最青春」、「最经典」、「很古典」、「很技术」、「很女人」という「副詞＋名詞」の型によって修飾され、同時に限定語の役割になっている。

Ⅱ－１－２ ある場合には、「副詞＋名詞」の型は文の中ではよく状況語という機能を担当している例がみられる。次の実例をみてみよう。例えば、

- (57) “对于我儿子——子尤的疾病……（我）很职业地和他们（指医生）谈，发现他的淋巴下面有一个肿块，……”

（香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・《半边天》「母与子的生命传奇」2006. 8. 28）

- (58) 坐在我对面的这个人，曾经在意大利和中学生很文艺地讨论“活着”与“生存”的区别，曾经引用崔护的“人面桃花”向日本人解释“时间”与“活着”，曾经在随笔里无比深情地写下……。

（《激情中国》・余华「《兄弟》情深」）

- (59) 送信来的老师搞清原委后笑了一下，立即又严肃地盯着我出神，好久，他很哲理地说：“其实今天的她，就是我记忆中的你；今天的你，就是当年的我。”

（余秋雨《文化苦旅・三十年的重量》）

- (60) 老人很哲理地朝我笑笑，说：“入乡随俗，总得跟着变。”是啊，本来是捧着一尊传统老神闯荡世界，小心翼翼地捧着家谱，捧着根本，捧着一个到哪儿都散不了架的小天地。”

(余秋雨《文化苦旅・飄泊者们》)

中国語文法の表現からみると、状況語というのは「副詞性修飾語」とも言う。ふつう文の中では、動詞・形容詞の前にあって状態・程度・方式などの意味を表す時には、連用修飾語を導く助詞「地」をつけるのが通常である。だが、「地」は状況語の目印と言える。上の例文(57)からみると、「和他们(指医生)谈」という動作の表現が、「很职业地」という「副詞+名詞」の型によって、「副詞性修飾語」として用いられる。同じように、例文(58)～(60)の中では、各例文の意味からみると、順にそれぞれの「讨论」、「说」、「朝着我笑笑, 说」という動作の表現が、それぞれの「很文艺地」、「很哲理地」、「很哲理地」という「副詞+名詞」の型によって修飾され、同時に状況語の役割がみられている。

II-1-3 またある場合には、「副詞+名詞」の型が文の中では補語として多くみられる。次の数例を挙げてみてみよう。

(61) “我觉得今天你们俩人穿得很情侣……”

(《鲁豫有约》「窦文涛采访录」2006. 4. 1)

(62) “我今天穿得比较淑女, 不想摆(动作)……”

(《头脑风暴》“芙蓉姐姐采访录”2006. 9. 2)

(63) “在台湾夜市的小吃街上, 菜都做得非常专业, 给外来的旅游客人提供了极大的方便, ……”

(香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・2006. 8. 20)

(64) “他生活得很阳光, ……”

(香港鳳凰衛視・樂樂チャイナ・2005. 10. 8)

例文(61)～(64)の中では、順に各例文の意味からみると、「穿得很情侣」、「穿得比较淑女」、「做得非常专业」、「生活得很阳光」という表現は、みなそれぞれの動詞「穿」、「穿」、「做」、「生活」の後ろに助詞「得」を用い、結果或いは状態の語句をつけられる。これらの語句を補語と呼ぶ。すなわち、例文(61)～(64)の中で「很情侣」、「比较淑女」、「非常专业」、「很阳光」という「副詞+名詞」の型がみなそれぞれの例文の中では、補語として表現されている。

II-1-4 またある場合には、「副詞+名詞」の型は文の中では述語という機能を担当し、平叙文の表現が多く見られる。平叙文には、名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、主述述語文などが含まれる。また、その意味により、肯定文と否定文に分けられる。次のいくつかの実例をみてみよう。例えば

(65) “刘星的爸爸很男人, ……”

(金牌大剧场《家有儿女》2006. 2. 17)

(66) “我觉得你(指47岁的模特儿幸福阿姨)不是很专业, 但是很真诚……”

(凤凰卫视中文台《半边天》「第七届 CCTV 模特电视大奖赛」2006. 12. 1 实况重播)

- (67) “在这_レ方面，我_レ觉得_レ我_レ还是_レ挺_レ男人_レ的。……”

(金牌大剧场《家有儿女》2006. 2. 17)

- (68) “关心_レ我_レ自己就是关心_レ观众。你_レ不要觉得是自私，把_レ自己的诚恳摆出来，这是_レ很_レ人_レ性的_レ关怀。”

(《激情中国》・李安「深怀文化归属情结」)

- (69) “我_レ比较_レ低调，很讲究_レ实际的东西。喜欢住_レ大房子。我18岁时在费城市中心买了_レ我的第一_レ栋房子，我还花_レ了很多钱去旅行，住_レ豪华宾馆。”

(《激情中国》・朗朗「绕过“一千个陷阱”走来」)

- (70) “中国官员不知道他们会不会做坏事，特地在他们的借住地外面筑了一道城墙，把握_レ关_レ闸大权，定期开_レ闸卖给一点食物给他们。这种情景也维持_レ了几百年，说明_レ双方_レ心_レ气_レ都_レ比较_レ平和。”

(余秋雨《行者无疆・我的窗下》)

- (71) “当时我_レ觉得她(指房莹)是一位_レ很_レ东方女人_レ的代表……”

(凤凰卫视中文台《鲁豫有约——说出你的故事》「走进服装设计师」2006. 11. 19)

例文(65)からみると、「很男人」という「副詞＋名詞」の型によって、文の中では述語という文法機能を担当している。また主語としての「刘星的爸爸」という言葉の表現によって、この例文は名詞述語文の肯定文とみられることがまちがいない。また例文(66)からみると、「很专业」という「副詞＋名詞」の型によって、文の中でも述語という文法機能が用いられ、また「你(模特儿幸福阿姨)」という主語及び否定詞「不」によって、この例文は名詞述語文の一部の否定の意味を持つと認められることも間違いない。同じように、例文(67)～(71)の中では、文法の側面からみると、順にそれぞれの「挺男人」、「很人性」、「比较低调」、「比较平和」、「很东方女人」という「副詞＋名詞」の表現は、それぞれの例文の中で述語という文法機能を担当している。もちろん、各例文とも平叙文とみられている。

Ⅱ－1－5 またある場合には、「副詞＋名詞」の型では、文の中ではふつう否定文が使わない。次の実例をみてみよう。例えば、

- (72) a. 我是在一个_レ很_レ西方_レ的地方长大的。(成立)
 b. 我是在一个_レ不_レ西方_レ的地方长大的。(不成立)
- (73) a. 他这个人说话_レ很_レ哲学。(成立)
 b. 他这个人说话_レ不_レ哲学。(不成立)

例文(72)の中では、aの場合には「很西方」という表現は成立するが、bの場合には「不西方」という表現は成立しない。同じように、例文(73)の中では、aの場合には「很哲学」という表現は成立するが、bの場合には「不哲学」という表現は成立しない。しかし、ある場合には具体的な

言語環境や共起する成分の影響により、否定文が「副詞＋名詞」の表現でも可能な場合もある。次の実例をみてみよう。

(74) “爸爸妈妈嫌我不够淑女，所以整天唠叨，他们终于商量出一套‘淑女培训计划’……”

(《齐鲁晚报》2001.8.16)

例文(74)の中では、全例文の意味からみると、「够淑女」というのは「副詞＋名詞」の型で肯定文と認められる。もちろん、「不够淑女」という表現が否定文とみられることは間違いない。

Ⅱ－1－6 また「副詞＋名詞」という型は、文の中では、ふつう疑問文を使わない。例えば、

- (75) a. 这个城市很现代。 (成立)
b. 这个城市很现代吗? (不成立)

例文(75)の中では、aの場合には、「这个城市很现代」と言えるが、bの場合には、「这个城市很现代吗?」とは言わない。

ちなみに、「副詞＋名詞」という型は一般的に命令文にも使うことができない。

Ⅱ－2 「副詞＋名詞」に関する語用価値

以上に挙げた各例文中で述べてきたように、「副詞＋名詞」という表現形式はふつう形容詞の文法機能を担当した上で、「形容詞＋名詞」という効果より、何倍以上の内包の性質・意味が広がって表現されていることがよく分かった。

以下では、その「副詞＋名詞」に関する語用価値の側面から、さらに分析してみたいと思う。

Ⅱ－2－1 「副詞＋名詞」という表現は、文の中では、その言葉は簡潔だが意を尽くしていることが感じられる。例えば、上の例文(5)にて、「你特气质，很男人，我非常崇拜你。」という表現もその一例である。すなわち、まず、文中の「你特气质」という言葉からみると、「气质」というのは、「①中国で、気によって形体もつ個物の実質。②個人の性格の基礎になっている遺伝的・生物学的な一般的感情傾向または性質。古くは多血質・憂鬱質・胆汁質・粘液質の4型に分類する試みがあるが、今日では精神医学上の分類や生物統計による分類などがある。」と解釈されている。その上、また文中の「很男人」という「男人」の言葉からみると、おとなの男性の性質・特徴などが多く含まれているはずである。例えば、円熟の男性の性格、意志については、勇敢また粘り強さ、落ち着いた心が広く、正義感のある信用できる着実な人間というイメージなどを指す場合が多い。要するに、例文(5)の「气质」、「男人」という抽象的な概念はそれぞれ言葉の直前に、程度副詞「特」、「很」で修飾されたら本来の両名詞の概念・意味の解釈を超えて、比喩或いは派生義の意味が広がっている。もちろん、その語用の効果も完璧の域に達することがみられる。当然なことであるが、文中の主人公は、「我非常崇拜你」(君にこの上ない崇敬の念を抱いて…)という結論になってしまった。だが、「副詞＋名詞」という語用価値はその情報の広さや新鮮さや多さなどが、ふつう「形容詞＋名詞」という表現の効果に比べて高く素晴らしいことを表現する。

Ⅱ－２－２ ある場合には、「副詞＋名詞」という表現によって、ある物事、人の個性が多視角的、鮮やかに総括されている。例えば、ふつう形容詞が「副詞＋形容詞」の型で、物事、人を描写するときに、ある物事、人によって対応的な言語をよく選んで修飾する。一例をあげてみると、例えば、女性を表現、形容するとき、一般的に「很年轻」（とても若い）、「很漂亮」（とても綺麗）、「很可爱」（とても可愛い）、「又年轻又漂亮」（若くて綺麗だ）のような言葉がよく用いられる。しかし、「副詞＋名詞」の型で、同じ女性を表現、形容すれば、その語用の効果が全然ちがうと感じられる。例えば、上の例文（３）にて、「晓庆的确变了，穿了一套白底镶天蓝的运动装，扎一根松松的马尾辫，又朴素又青春。」という表現からみると、その文中の「又青春」という「青春」は、「人生の春にたとえられる時期」と解釈されている。すなわち、文中の女性主人公「晓庆」という姿は、人々の青春時代の思想、感情、身なりなどのさまざまな特徴、イメージが、「又青春」という表現によって、全面的に、一瞬間で読者の目の前に生き生きと浮かんでくる。だが、ある物事、人を表現、形容する場合には、どんな形容詞か名詞を選ぶのが良いのか、やはり語用の効果をよく考えることが肝心である。

Ⅱ－２－３ ある場合には、「副詞＋名詞」という表現によって、話し手はある場合、物事、人に対する感情、評価などが強く感じられる。例えば、上の例文（１）にて、「我们桑家的人，比较重感情的……，比较传统的，比较古典的。」という表現からみると、文中の「比较传统」という「传统」は、主に「ある民族や社会・団体が長い歴史を通じて培い、伝えて来た信仰・風習・制度・思想・学問・芸術など。特にそれらの中心をなす精神的在り方。」という意味である。その上、つづいて文中の「比较古典的」という「古典」の言葉もあり、その意味としては、主に「①昔の典型・儀式また方式。②昔、書かれ、今も読み継がれる書物。③転じて、いつの世にも読まれるべき、価値・評価の高い書物。」とそれぞれ解釈されている。だが、例文（１）の全体の意味からみると、やはり話し手は、文中の「比较重感情的」という表現の上に、さらに「比较传统的」、「比较古典的」という言葉によって、「我们桑家的人」を、人々に高く評価を行うとともに、いくつかの情報も伝える気持ちが強く感じられる。

Ⅱ－２－４ 日常生活の中では、「副詞＋名詞」という表現は、人々に「喜んで聞き楽しんでみる」という使いやすい言語表現の一種である。というのは、「副詞＋名詞」の型は、ふつう「副詞＋形容詞」の型と同じように、両者とも同じ文法機能を持ち、ある物事、人物を形容しやすいからである。ところが、「副詞＋名詞」型の中では、ふつう二音節名詞が程度副詞に修飾され、ときには名詞フレーズにも修飾される。しかし単音節名詞の場合は、程度副詞を修飾することはできない。それは名詞の性質との関係がある。というのは、ふつう単音節名詞は、単純に具体的な意味をもつ場合が多く、広げる余裕と想像の余地がなさそうなので、「副詞＋名詞」の型へ入れることがなかなか難しくなる。例えば、「很人」、「很国」、「很风」、「很树」などのような表現は言葉の意味が通じないだけでなく、何の想像もできないだろう。逆に、一部二音節名詞、特に抽象的な意味をもつ二音節名詞は多数が、「副詞＋名詞」の型によって、人々に自由に、多方位的な想像をたくましくすることができる。例えば、「很中国」、「很青春」、「很天才」、「很职业」、「很传统」のような表現である。

以上、さまざまな側面から「程度副詞＋名詞」という表現形式を考察分析してきた。「程度副詞＋名詞」という表現の形式をとった場合、その意味は、ふつうその名詞の基本的客観的な意味を概

括し反映するばかりではなく、程度副詞に修飾されることによって、その名詞はさまざまな連想的、かつ多彩な意味が広がって、特徴的具象的な新しい意味が生き生きと表現されてくる。すなわち、「想像性が無限で、意味が広くて深くなる」と言われる特徴である。また「程度副詞＋名詞」という表現形式は、形容詞の役割と同じような文法機能を担うことができる。さらに、「程度副詞＋名詞」の表現形式は、ふつう「形容詞＋名詞」あるいは「程度副詞＋形容詞」の表現型より、その語の意味やイメージが連想的で多彩に拡大しその表現効果が多大であることが、本論の考察でよく分かった。「程度副詞＋名詞」を用いた新語・流行語は日常生活の中では、とくに改革開放の時代における十数年の間に、中国の人びとに「喜んで聞き楽しんで見る」言葉の表現としてどんどん生まれ流行し、注目されてきた。有効かつ楽しい表現形式として、書き言葉だけではなく、話し言葉、さまざまなコミュニケーションのなかで、今日、ますます流行し普及拡大している。

◎主な引用書目

- 『香港短篇小说选(2000～2001)』许子东 编 三联书店(香港)有限公司 2004
『台湾2005年小说选』蔡素芬 主编 台北・九歌出版社有限公司 2006
『激情中国』陈启伟 主编 上海书店出版社 2006
『文化苦旅』余秋雨 著 东方出版中心 1992
『行者无疆』余秋雨 著 华艺出版社 2001
『余秋雨人生哲言』余秋雨 著 上海人民出版社・上海辞书出版社 2006

◎主な参考文献

- 『实用现代汉语语法』(增订本)劉月華・潘文娛等 著 商務印書館 2002
『語法講義』朱德烈 著 商務印書館 1982
『現代漢語八百詞』呂叔湘 主编 商務印書館 1991
『实用漢語語法』房玉清 著 北京大学出版 2001
『词类问题考察』胡明扬 主编 北京语言文化大学出版社 1997
『现代汉语副词研究』张谊生 著 学林出版社 2000
『现代汉语名词的多视角研究』刘顺 著 学林出版社 2003
『漢語語法三百問』邢福义 著 商務印書館 2003
『程度副詞「很」の構文についての検討』于克勤 本学『研究紀要』第31集 2002
『現代中国語における慣用的表現型「很＋有＋N」についての考察』于克勤 本学『研究紀要』第32集 2003

◎その他の参考資料

- 香港鳳凰衛視・楽楽チャイナにより放送された中国語の各特定の番組(名称略)
関連の各新聞、雑誌など(名称略)

〈付記〉本研究は、平成18年度本学特定研究助成費による成果の一部である。